

瀬戸内寂聴さん死去

作家、僧侶 文化勲章 99歳

自らの波乱の半生を描いた小説「夏の終り」などの作品や源氏物語の現代語訳で知られ、親しみやすい説法でも人気を集めた作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんが死去した。九十九歳。

一九二二年、徳島市で神仏具店の次女として生まれた。東京女子大に在学



2016年撮影

し、太平洋戦争中だった一九四三年、二十歳で結婚。一児の母となったが二十五歳の時に出奔し、文筆活動を始めた。自由と自立を求めて情熱的に生き、近代日本の女性の伝記小説を次々に描いて流行作家になった。

七三年の五十一歳の時、岩手県平泉町の中尊寺で得度し、法名「寂聴」に。九八年には七十五歳で源氏物語の現代語訳を完成させ、源氏ブームに火を付けた。二〇〇六年には文化勲章を受章した。本紙に多く連載を執筆。一年十一月から半年間「この道」を執筆。さらに一二年八月から、自作を振り返る「足あと」を連載した。